

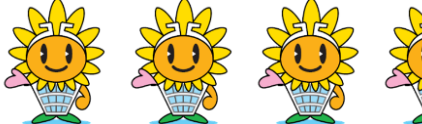
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)

1 建物概要

建物名称	ワンビアーカイズ九州センター2号棟	BEE	0.6	BEEランク	B-	★★
------	-------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.4 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	/5		
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい  4点以上 ふつう  3点以上 がんばろう  3点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.0	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.4	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.7
<自由記述> 既存の建築躯体を再利用しない。 構造耐力上主要な部分にリサイクル資材は利用しない。		<自由記述> 空間を確保するため、階高は高くとっている。 要望により床荷重はゆとりを大きくとっている。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.4	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.4	LR2/ 1.1 節水	スコア
<自由記述> LCCO2概算値の排出率は低い。		<自由記述> 給水設備なし。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.3	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 1
<自由記述> 生態系保全に関する配慮が行えない。		<自由記述> 歩道側に緑地が設けてある。	
4 高齢社会への対応		スコア平均	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	建物の外皮性能(BPI評価)	
<自由記述> 特になし。		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		建物の一次エネルギー消費量(BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		外構緑化指数	
		建物緑化指数	

: 入力欄

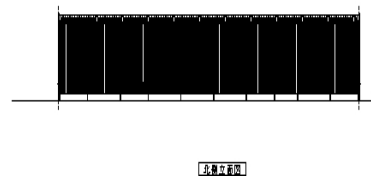
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ワンビシアークイブズ九州センター2	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	6人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2017年11月 竣工	評価の実施日	2017年5月19日
敷地面積	11,138 m ²	作成者	伊東 龍二
建築面積	2,729 m ²	確認日	2017年5月19日
延床面積	2,729 m ²	確認者	京谷 正司



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	標準計算 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.1
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.8	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.3

3 設計上の配慮事項		
総合 大きな建物空間と耐荷重のある設計となっている。 敷地にゆとりがあり、周辺への影響が少なくしている。	その他 特になし	
Q1 室内環境 特になし	Q2 サービス性能 空間を確保するため、階高は高くとしている。 要望により床荷重はゆとりを大きくとしている。	Q3 室外環境 (敷地内) 公共空間からほとんど見えない立地にある。 敷地周囲は塀でなく、視線を遮らないフェンスとしている。
LR1 エネルギー 照明器具はLEDを採用している。	LR2 資源・マテリアル 汚染物質を含まない材料を使用している。	LR3 敷地外環境 建物高さが低くしており、近隣への日照障害がない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
ワンビシアークイブズ九州センター2号棟

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.5
Q1 室内環境			-		-	-
1 音環境			-		-	-
1.1 室内騒音レベル			-		-	-
1.2 遮音			-		-	-
1 開口部遮音性能			-		-	-
2 界壁遮音性能			-		-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-	-
1.3 吸音			-		-	-
2 温熱環境			-		-	-
2.1 室温制御			-		-	-
1 室温			-		-	-
2 外皮性能			-		-	-
3 ゾーン別制御性			-		-	-
2.2 湿度制御			-		-	-
2.3 空調方式			-		-	-
3 光・視環境			-		-	-
3.1 屋光利用			-		-	-
1 屋光率			-		-	-
2 方位別開口			-		-	-
3 屋光利用設備			-		-	-
3.2 グレア対策			-		-	-
1 屋光制御			-		-	-
3.3 照度			-		-	-
3.4 照明制御			-		-	-
4 空気質環境			-		-	-
4.1 発生源対策			-		-	-
1 化学汚染物質			-		-	-
4.2 換気			-		-	-
1 換気量			-		-	-
2 自然換気性能			-		-	-
3 取り入れ外気への配慮			-		-	-
4.3 運用管理			-		-	-
1 CO ₂ の監視			-		-	-
2 喫煙の制御			-		-	-
Q2 サービス性能			-	0.43	-	3.1
1 機能性			-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ			-		-	-
1 広さ・収納性			-		-	-
2 高度情報通信設備対応			-		-	-
3 バリアフリー計画			-		-	-
1.2 心理性・快適性			-		-	-
1 広さ感・景観			-		-	-
2 リフレッシュスペース			-		-	-
3 内装計画			-		-	-
1.3 維持管理			-		-	-
1 維持管理に配慮した設計			-		-	-
2 維持管理用機能の確保			-		-	-
2 耐用性・信頼性			2.6	0.50		2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30		
1 躯体材料の耐用年数			-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔			3.0	0.67		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔			3.0	0.33		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	-		
2.4 信頼性			1.0	0.20		
1 空調・換気設備			-	-		
2 給排水・衛生設備			-	-		
3 電気設備			1.0	0.50		
4 機械・配管支持方法			-	-		
5 通信・情報設備			1.0	0.50		

3 対応性・更新性			3.7	0.50		-	3.7
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高10.845m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		床耐荷重30,000n/m2	5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		-	-		-	
2	給排水管の更新性		-	-		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.17		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.17		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.33		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.33		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	2.5
LR1 エネルギー			-	0.40		-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.79	3.1	0.63		-	3.1
4 効率的運用			2.0	0.25		-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		-	-		-	
4.2	運用管理体制		2.0	1.00		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.3
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			-	-		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60		-	2.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			1.6	0.20		-	1.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			1.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		1.0	1.00		-	
3	冷媒		-	-		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.3
1 地球温暖化への配慮		排出量89%	3.4	0.33		-	3.4
2 地域環境への配慮			1.6	0.33		-	1.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			1.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-		-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.50		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.50		-	
3 周辺環境への配慮			2.1	0.33		-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	